資料1

「復興庁・復興推進委員会」

みんぷくの活動から得られた教訓と意見

令和元年7月3日　みんぷく本部　赤池孝行

総括責任者経歴書

平成31年4月1日

所属・職・氏名	特定非営利活動法人　みんぷく （旧名称：3.11被災者を支援するいわき連絡協議会） 法人理事・赤池孝行
震災後の経歴	2011.3.11　消防団員として出動、被災状況確認、交通整理に従事 3月12日　避難所の開設運営に消防団員、町内会役員として現場指揮を2ヶ月間行う 5月以降　仮設住宅支援、自治会立ち上げを提案。実施時にはいわき市社協といわき市市民協働課と連携。 6月から　支援団体の連携準備会に参加 2012.6.17　3.11被災者を支援するいわき連絡協議会を設立 被災者・避難者支援とネットワーク組織の基盤強化に取り組む 2013.7.16　NPO法人格取得 2014.1.21　組織内に災害・復興公営住宅支援部会を設置 以降　周辺調査、入居者ヒアリング、自治会サポートを開始する 2014.10.1　第1期福島県の委託事業「生活拠点コミュニティ形成事業」を6カ月間受託し県内にコミュニティ交流員を配置 2015.4.1　第2期「生活拠点コミュニティ形成事業」を1年契約で受託し拠点間の連携体制を築く 2016.4.1　第3期「生活拠点コミュニティ形成事業」3年契約で受託 拠点毎の管轄団地間交流・連携体制を確立　（全団地役員連絡会、合同懇談会、合同勉強会など） 2019.4.1　第4期「生活拠点コミュニティ形成支援業務委託」を2年契約で受託（安全安心の取り組み強化）
職　　歴	年　月 ／ 内　容 1974年4月 ／ 帝国臓器製薬㈱入社 2010年8月 ／ あすか製薬㈱（旧帝国臓器製薬）退社 2012年7月 ／ 3.11被災者を支援するいわき連絡協議会入社、事務局長 2015年12月 ／ 福島県委託事業総括責任者就任、現在に至る
地域活動 保有資格等	20年ほど前からいわき市中央台地区の青年会立ち上げや消防団新設の他、地域副区長（防災担当）を勤めた 平成30年4月1日より　いわき市消防団第1支団第8分団分団長拝命 保有する資格 普通運転免許、危険物乙四類免状、高圧ガス製造保安責任者免状 特定化学物質取扱主任者、有機溶剤取作業主任者、フォークリフト運転証、 危険予知トレーニングトレイナー、防災士

みんぷくの「課題認識」：孤立する人を生まないためには？

職員研修資料

継続的な支援と
多様なサポート体制

長期的支援は地元のチカラで！

４つの課題**「心の問題」「自立の問題」「社会的な問題」「地域再生の問題」**を設定し、業務に当たる。

課題1　長期避難による精神的なストレスの緩和

心の問題

震災の｛記憶／喪失感／将来の不安｝が影を落としている

・長期的、継続的な支援には→地域の環境、被災地の現状把握が重要。

課題2　エンパワーメントを重視したサポート

自立の問題

一方的な支援になりがちであった

・盲目的な奉仕者にならない

・ニーズ把握から始める

⇒ 住民らの内在するチカラ（知識や経験）とやる気を引き出す活動

課題3　復興住宅の課題は常に高齢者問題を含む

社会的な問題

避難先コミュニティでの急速な高齢化

・自治会長のサポート

・孤立の回避

・楽しみ、健康維持

⇒ 良きパートナーと信頼関係を構築。

・社会福祉協議会
・地域包括支援センター
・民生児童委員
・NPO　等

課題4　団地入居者と周辺地域を結ぶ

地域再生の問題

画一的な支援には限界がある

・地域の伝統、文化の理解から始める。

・復興公営住宅を受け入れる地区だからこそ可能な　新しい行事、交流会の可能性を探る。

みんぷくの活動紹介

自治会設立・運営支援

自治会を設立するための規約作成や打ち合わせ、
総会の実施等のお手伝いをさせていただきます。
自治会設立後も、役員の皆さんが円滑な活動ができるよう
相談事項に合わせたサポートや団地自治会役員同士の
情報交換や相談の場づくりも行っています。

自治組織連絡会

定期総会

自治会活動を円滑にするために
補助金申請する際は、
申請～報告までの
書類の作成もお手伝いしています！

地域交流支援

地域の方々とのふれあう機会をつくります。
自治会設立後は、近隣町内会と自治会の良好な関係を
築くためのお手伝いもしています。
地域と共に安心して生活できるサポートも行います。

地域のお祭りへの参加

市民総ぐるみ
一斉清掃

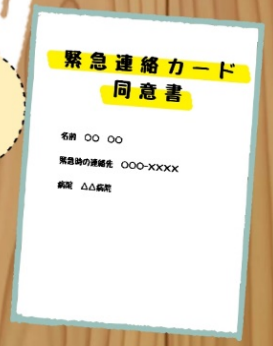
地元の方を講師に
招いた交流会

防災意識醸成

安心・安全な日々を過ごすために
『万が一に備える活動』も大切です。
復興公営住宅にお住まいのみなさんが万が一の時にも
あせらず・慌てず・団地内で協力しながら
対応できるような仕組みづくりのお手伝いもしています。

地元市町村の防災関連機関による
防災訓練や講演会などの企画・実施

緊急時等にいち早く「命を守る」ため
緊急連絡先カードの作成等も
お手伝いしています。



いわき拠点：CSR

味の素による

健康・栄養セミナー

4月26日

簡単に出来て栄養も

満点！！

味の素さんには

すべての団地で実施

して頂いています。

CSR　＝　企業の社会貢献活動

団地のカルテ（教訓　:団地の成熟度にはかなりの差がある。団地個別の課題に対応した支援の必要性を認識）

1	自治組織の状況（現状分析）	到達して欲しい目標（対応計画）	実　施	検証・評価	次期サポート
	【できる事】 ・自治組織運営（役員会の招集、開催や総会の進行、月1回のお茶会の開催・郡山クリーン作戦の実施） 【できない事】 ・補助金の申請書類・精算書類の作成 ・交流会等のチラシの作成 ・地元町内会に加入しているものの、会長、副会長が各会合へ参加するに留まり、住民間交流はあまりない	やるべきこと ・昨年度までの自治組織運営を基盤として、チラシの作成、参加の呼びかけの体制を整えていく ・補助金の申請については、昨年度まではみんぷくが手伝っていた。今年度は自治組織主導で行うことができることを目指す。	年度内 年度内	実施後に記入 出来たか・出来なかったか ・自治組織運営は会長を中心として役割分担や協力体制が確立され機能しており、自主的に交流会も開催されている。これからは、会長以外の役員がチラシ作成や補助金関係書類の作成が出来るよう、10月より講座を開始した。	評価後に記入 ・チラシ作成講座は終了し、今後は助成金申請・精算講座を行う予定で、総会資料の簡素化にも協力する。
2	会長・役員さんの状況	到達して欲しい目標（対応計画）	実　施	検証・評価	次期サポート
	・役員改選が行われ、会長他複数の役員が交代した。新任役員は前年度からの留任者が多く、自治組織活動への意識も高い方が多い ・自治組織主催の行事への参加者が固定化している中、より多くの住民参加の為の工夫が課題と捉えている	・役員会の中で、活発な意見交換ができるように、役員間の信頼関係を築いていく。	９月末まで	・会長が役員会の連絡・検討事項の資料を作成し、毎回役員会時に配布している。 ・また、毎回各役員・管理人より意見や困り事を聞いて協議・討議し、役員同士の信頼関係が構築出来ている。	・会長が中心となり、役員や管理人をまとめているので、経過を見守る。
3	団地の課題	到達して欲しい目標（対応計画）	実　施	検証・評価	次期サポート
	・昨年自治組織主催で月1回お茶会を開催してきたが、参加者が少なく固定化し、今年度から中止した。自治組織活動への理解度と関心度向上への具体的な施策や、自治組織主催行事への参加者を増やすための施策が課題	・役員以外の住民にも自治組織の大切さを考えてもらい、自治組織行事に多くの住民が参加できるように自治組織役員とみんぷくが一緒に考え実施して行く。	年度内	・自治組織へ新規入居者の情報が入らないため、自治組織役員やみんぷく職員が新規入居者と会えた時点で自治組織への加入や行事への参加を促している。	・新規入居者への対応を継続する。また、戸別訪問等で気付いた住民については、役場や社協との連携を継続する。
4	外部支援団体との交流状況	到達して欲しい目標（対応計画）	実　施	検証・評価	次期サポート
	・さくらスポーツはH30年度も継続 ・前年度富岡町役場保健師による健康講座を隔月開催。今年度年4回富岡町社協による出前カフェと併せて開催 ・おだがいさまセンターへ通う住民も多くあり、各種講座へ参加している	・これまでの関係は継続し、郡山市内のリソースも活用していく。 ・おだがいさまセンターとの関係を密にし、おだがいさまセンターや役場等の行事日程を考慮し、自治組織やみんぷくの行事日程を調整し、住民が参加しやすい環境を整える。	年度内	・さくらスポーツの体操教室や富岡社協のはまかぜ北の健康講座が定期開催されている。 ・おだがいさまセンターや役場の行事と自治組織行事等が重複しないように調整している。	・料理教室や陶芸教室等の交流会が、定期開催されるようサポートする。

カルテ：住民が取り組まなければならいノルマではない。こうなったらいいな。やってみよう。住民の思いを最優先にサポートする。

意見

復興公営住宅の集会所を地域の財産に位置づける
（団地を受け入れた地域にメリットを感じてもらう）

地域交流の拠点：市役所の出前講座や地域資源（警察、消防、病院など）を活用して学びの場を創出、趣味のサークル等と通じて独居者や超高齢者の孤立防止

安心・安全の拠点：防災講話、防犯教室などを地域と共に開催
地域みんなで助かろう！団地自体の孤立防止と安心・安全な居場所つくり

介護予防の拠点：介護保険財源を活用し、ラジオ体操、脳トレ、フラダンスなど健康維持の奨め
元気なお年寄りには何時までも元気でいて頂く
認知症予防には自治会活動（役割を持つこと）が有効